

## 1 非常災害対策計画の策定過程の紹介

おもえ小規模多機能支援センター

管理者 姉石 誠司 氏



おもえ小規模多機能支援センターの非常災害対策計画進捗状況

平成28年 8月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣の住民から、10年前に沢が氾濫してセンターの建物が床下浸水の被害を受けたことを聞く。</li> <li>・急遽台風対策を検討する。</li> <li>・重茂漁協より土嚢を運んでいただいた。</li> <li>・被害なし。</li> </ul>
9月初旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋雨前線の際には、重茂漁協参事より沢の場所へ土嚢を運んでいただけるとの連絡を受ける。</li> <li>・重茂漁協から依頼を受けた佐賀組の方が土嚢を運び、積んでくださった。</li> <li>・一部雨漏りは発生したが、沢からの氾濫被害はなし。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24分団団長と面談。「万が一のときは、高台にある屯所の2階を利用者専用にも使用してもよい。」との話をいただく。</li> <li>・屯所の落成式に職員、利用者と見学に行く。2階への避難は利用者が困難なため見送ることとした。</li> </ul>
10月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合防災訓練を行う。</li> <li>・「大地震を想定し、建物が倒壊の恐れがあるために、交流センターへ避難する。」という訓練内容でおこなった。</li> <li>・宮古消防署2名、宮古市危機管理課、24分団団長、地域住民12名の方の協力をいただいた。</li> </ul>
12月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回運営推進会議で非常災害計画（案）を委員の皆様に説明し、助言をいただく。</li> <li>・車椅子でも利用者様がスムーズに避難できるように交流センターへスロープの設置ができないか、宮古市介護保険課より宮古市危機管理課へ確認してもらうこととした。</li> </ul>

後日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮古市介護保険課より電話いただく。</li> <li>・重茂地区では交流センターの他に重茂中学校も避難場所になっている。そこでは、スロープ及び多目的トイレを設置しているとの助言をいただく。</li> </ul>
平成29年 1月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重茂中学校副校長と災害時の避難場所の事で面談する。</li> <li>・「利用者の避難場所として体育館にある部室を使用してもよい。」との話を受ける。</li> </ul>
3月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重茂漁協女性部部長と面談。「利用者が避難するには重茂中学校よりも重茂小学校の方が距離も近いのでよいのではないかと？また、センターの隣の沢が心配であれば、宮古市の芳賀危機管理監に相談してみてもどうか。」との助言をいただく。</li> </ul>
4月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮古市芳賀危機管理監と面談。</li> <li>・センターの隣を流れる沢のことと、避難場所のことで助言を頂く。</li> <li>・一度、おもえ小規模多機能支援センターへ来訪し、沢の状況を確認していただくこととなった。（宮古市介護保険課立ち合いのもと5月中旬頃を予定）</li> </ul>

## おもえ小規模多機能支援センター非常災害対策計画（修正案）

### （目的）

第1条 この計画は、おもえ小規模多機能支援センターにおける非常災害時の体制整備について必要事項を定め、火災、水害、土砂災害、地震等の災害の予防及び人命の安全並びに災害の防止を図ることを目的とする。

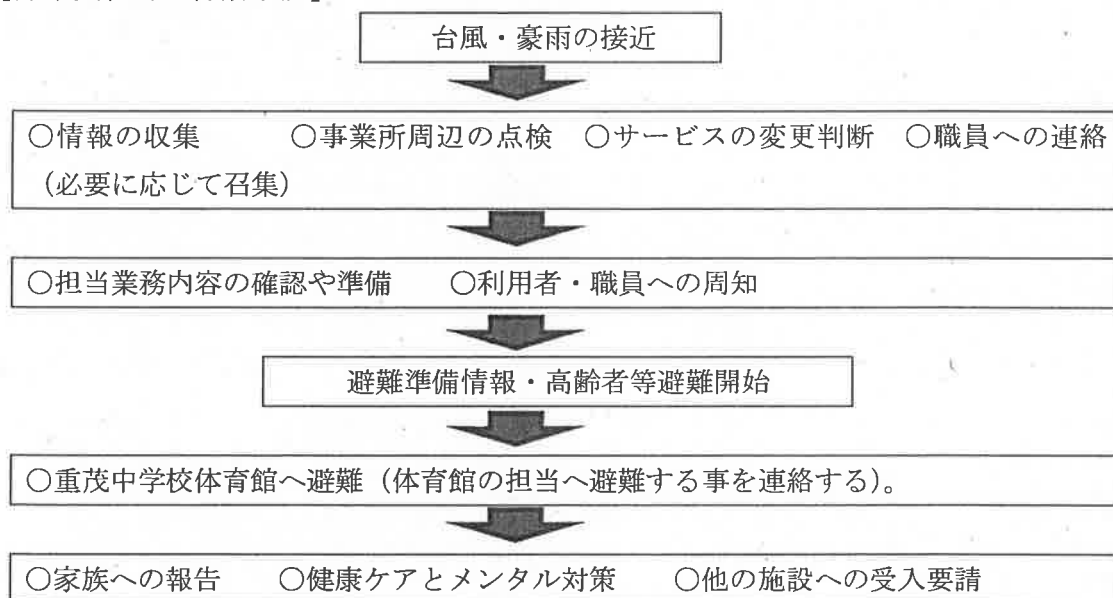
### （非常災害時の対応…行動手順）

#### 第2条

##### 1、 風水害（土砂災害）

風水害は気象情報などで接近を知ることができ、事前の準備ができる災害である。風水害時の行動手段は以下の通りとする。

#### 【非常災害時の行動手段】



#### 【情報の収集】

- テレビやラジオ、インターネットなどによる大雨や台風に関する気象情報に注意する。
- 警報は急に発表されることも多いため、常時、気象情報に気を付ける。

#### 【事業所周辺の点検】

- 事業所周辺を定期的に見回り、沢の水かさの増加や土砂災害の前兆現象がないか注意する。

(土砂災害の前兆現象)

- 崖崩れ… ・崖からの水が濁る。・崖の斜面に亀裂が入る。・小石がバラバラ落ちてくる。  
・崖から異常な音がする。
- 土石流… ・山鳴りや立木の裂ける音、石のぶつかりあう音が聞こえる。  
・雨が降り続けているのに川の水位が下がる（鉄砲水の前兆）  
・異常な匂いがする。（土の腐った匂い。きな臭い匂い等）
- 地すべり… ・地面にひび割れが出来る。 ・沢の水が濁る。  
・斜面から水が吹き出す。 ・電柱や塀が傾く。

※風雨が激しい段階では、見回りを一時控える。職員も安全を考慮して対応する。

【サービスの変更判断】

- 通いサービスの利用者様（家族）には連絡をしてサービス内容が変更になる事を伝える。
- 訪問サービスの利用者様（家族）には連絡をしてサービス内容が変更になる事を伝える。
- 泊りサービスの利用者様（独居又は家族が不在の場合を除く）は、連絡をしてサービス内容が変更になる事を伝える。
- 独居の利用者様は、自宅には帰さず、センターで対応する。

【職員への連絡（必要に応じて召集）】

- 夜間の際は、必要に応じて近隣の職員を召集する。
- 避難準備情報発令後の夜間体制は自宅待機者・看護対応・応援隊1・2の職員の優先で宿泊利用者へのケアを行う事とするが事業所徒歩圏内の職員は駆けつけて、利用者様のケアを行う事とする。

【担当業務内容の確認や準備】

- 災害警戒時には、担当別の業務内容を確認し、速やかに避難等の対応ができるよう、点検や準備を行う。当日の長は①～④の班に職員配置を決める。
  - ① 情報収集、連絡担当班（気象情報の継続確認、市や県、防災関係機関からの情報収集など）
  - ② 救護班（救護運搬用具の点検、配備、医薬品等の点検、準備等）
  - ③ 避難誘導班（屋外の飛ばされそうな物の移動、火の元の点検、発電機の準備、避難場所、経路、場所の確認等）
  - ④ 物資班（備蓄品の確認、非常用持ち出しセットの確認等）

#### 【利用者・職員への周知】

- 職員間で十分な意思疎通や情報の共有化が図られるよう、ホワイトボード等を使い気象情報などを記入する。
- 災害についての正確な情報を伝えて利用者の動揺・不安を解消するとともに、避難の準備など適切な行動が取れるようにする。

#### 【重茂中学校体育館へ避難する】

- 避難準備情報・高齢者等避難開始が発令したら、体育館を管理又は鍵を所持している重茂中学校副校長菅生〇〇様、中沢〇〇様、山崎〇〇様の方に利用者様を重茂公民館に避難をさせる事を連絡する。
- 24分団団長 高坂順一様へ避難する事を連絡する。
- 避難するにあたり事前に連絡可能な場合は、宮古市保健福祉部介護保険課へ「避難先、避難する利用者・職員の人数、避難する期間等」を連絡する。事前に連絡が出来ない場合は、連絡可能となった時点で連絡をする。
- 避難する際は、駆けつけた家族や地域の方、その他の関係者が把握できるよう、玄関先に避難先等を掲示する。なお、訪問者が伝言を残せるよう、メモ用紙と筆記用具などを用意しておく。
- 公用車を使用しての送迎を基本とするが、職員は2人体制など安全には十分に考慮して行う事。

#### 【家族への報告】

- 避難が完了したら、家族に利用者と事業所の状況を伝える。

#### 【健康ケアとメンタル対策】

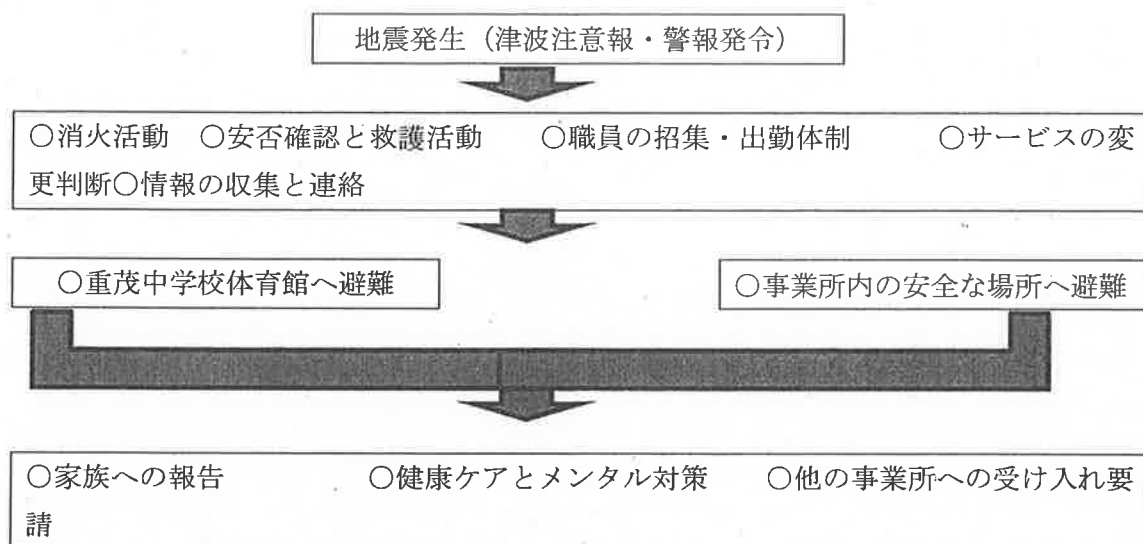
- 職員は、利用者の健康状態や精神状態を確認し、体調管理や不安感の軽減に努める。
- 心身の変調が著しい利用者に対しては、かかりつけ医に相談又は救急車対応等早期の検討をする。医療機関の受け入れが困難な時は、宮古市保健福祉部介護保険課に相談する。

#### 【他の施設等への受け入れ要請】

- 事業所の被災や避難勧告の継続等により、休業せざるを得ない場合は、市と協議し、利用者を他の施設等で受け入れてもらうよう調整を行う。

## 2、地震・津波

風水害と異なり、予測が困難な中で備えが必要となる災害である。地震発生時・津波注意報・警報の行動手段は以下の通りとする。



### 【消火活動】

- 火元付近にいる職員は、揺れが収まったらすぐに「火の始末」をするとともに、ガスの元栓を閉め、火災を防止する。
- 出火を発見したら、揺れが収まり次第、直ちに消火活動を開始する。消火出来ない場合は、消防に連絡するとともに、利用者の避難が必要かどうか判断する。

### 【職員の召集と出勤体制】

- 事業所へ徒歩圏内で駆けつけることが可能な職員は自身と家族の安全が確保された後、

参集する。里地区の職員は家族の安全が確保された後、参集する。

- 海沿いを通ってくる職員は、地震発生後、情報収集を行い津波注意報・警報が発令した場合、出勤はせず安全な場所で避難、待機とする。但し、里地区の職員は家族の安全が確保された後出勤する。解除後は状況確認をセンターにして、指示を受ける。

### 【安否確認と救護活動】

- 直ちに利用者、職員の安否を確認する。
- 負傷者の応急手当を実施し、状態によっては宮古消防署へ連絡する。

### 【情報の収集と連絡】

- 事業所の破損状況や事業所の建物周辺の危険性について確認する。
- テレビ、ラジオ、インターネットなどで地震の震源地や規模、余震、津波情報、周辺の被害状況や交通状況など、必要な情報を収集する。
- 職員間で十分な意思疎通や情報の共有化が図られるよう、ホワイトボード等に被害状況などを記入する。
- 利用者様へ災害の正確な情報を伝えて、利用者様の動揺や不安を解消するとともに、避難の準備など適切な行動がとれるようにする。
- 事業所が被災した場合には、宮古消防署や宮古市役所（重茂出張所）に応援を要請するとともに、必要な指示を受ける。

### 【サービスの変更判断】

- 津波注意報・警報が発令した場合、利用者様の送迎は行わない事。通いサービス・訪問サービスは解除になるまでは行わない事とする。但し、津波浸水地区以外の利用者様の自宅へ訪問する時はセンター長（役職者）の指示のもと安全に考慮して行う。
- 独居の利用者様で自宅に居る場合は、あらかじめ、地区の民生委員や消防団の職員に情報を伝え、対応を決めておく。
- 地震発生時に送迎、訪問に出ている職員は、その場で待機し災害時マニュアル又は、現場の指示に従い安全な場所へ避難する。

### 【重茂中学校体育館へ避難する】

- 避難準備情報が発令したら、体育館を管理又は鍵を所持している副校長菅生〇〇様、中沢〇〇様、山崎〇〇様の方に利用者様を重茂中学校体育館に避難をさせる事を連絡する。
- 避難するにあたり事前に連絡可能な場合は、宮古市保健福祉部介護保険課へ「避難先、避難する利用者・職員の人数、避難する期間等」を連絡する。事前に連絡が出来ない場合は、連絡可能となった時点で連絡をする。
- 避難する際は、駆けつけた家族や地域の方、その他の関係者が把握できるよう、玄関先に避難先等を掲示する。なお、訪問者が伝言を残せるよう、メモ用紙と筆記用具などを用意しておく。
- 公用車を使用しての送迎を基本とするが、職員は2人体制など安全には十分に考慮して行う事。
- 負傷者の応急手当を実施し、状態によっては宮古消防署へ連絡する。
- ブレーカーの切断など、2次災害発生の防止措置を行う。
- 余震についても十分注意する。
- 避難の際は、ヘルメット又は防災頭巾を着用する事。

**【家族への報告】**

○避難が完了したら、家族に利用者と事業所の状況を伝える。

**【健康ケアとメンタル対策】**

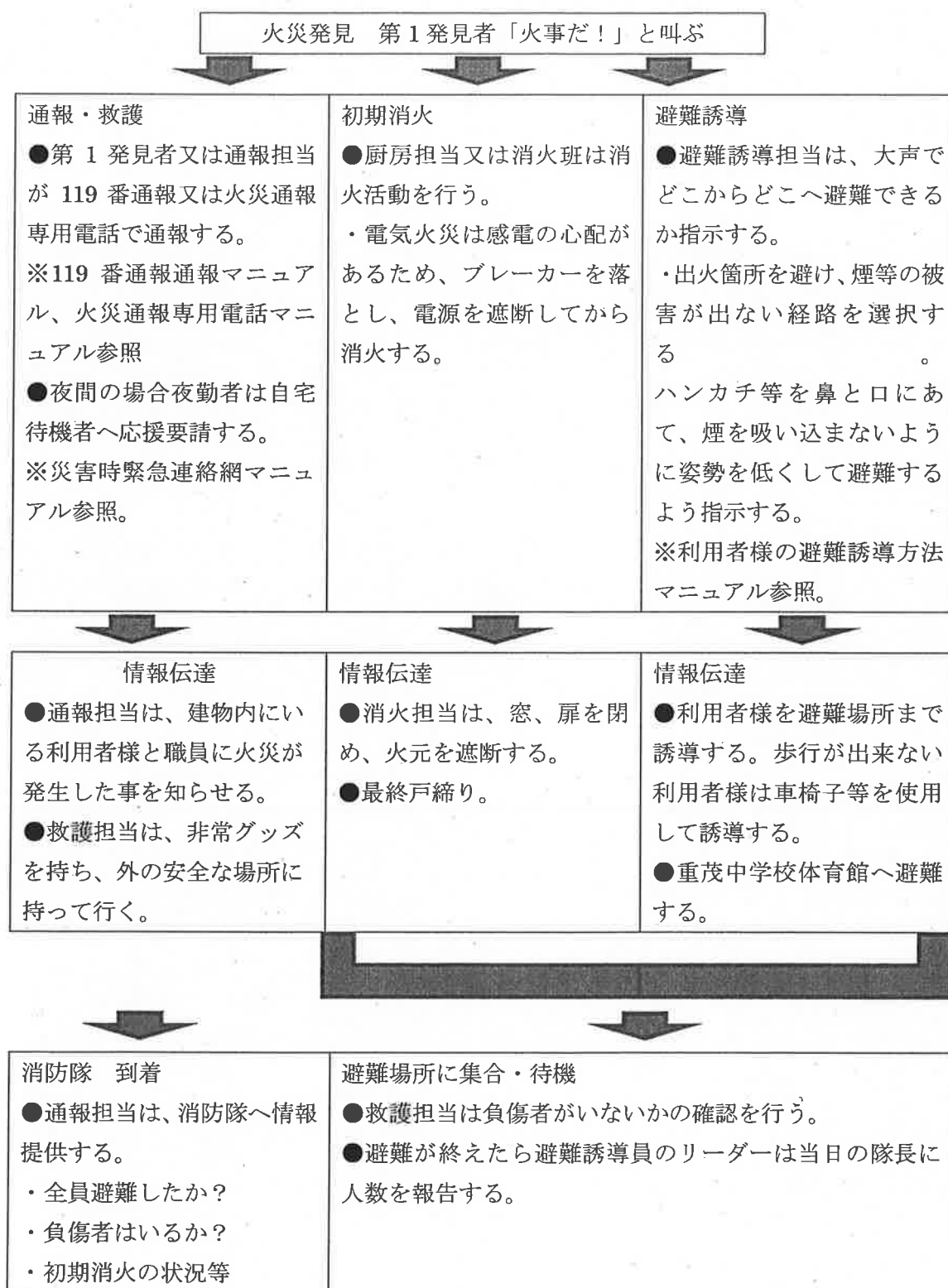
○職員は、利用者の健康状態や精神状態を確認し、体調管理や不安感の軽減に努める。  
○心身の変調が著しい利用者に対しては、かかりつけ医に相談又は救急車対応等早期の検討をする。医療機関の受け入れが困難な時は、宮古市保健福祉部介護保険課に相談する。

**【他の施設等への受け入れ要請】**

○事業所の被災や避難勧告の継続等により、休業せざるを得ない場合は、市と協議し、利用者を他の施設等で受け入れてもらうよう調整を行う。

### 3、火災

常日頃から、注意をはらい、いざという時に備えておく必要がある災害である。火災発生時の行動は以下の通りとする。



#### 【通報・連絡・班兼救護】

- 火災を発見した職員から火災の連絡を受けたら直ちに 119 番又は火災通報専用電話で通報する。
- 火災が発生したら救護担当は、非常グッズを持ち、外の安全な場所に持ち出す。その後は直ちに利用者様の避難誘導の応援にはいる。
- 消防隊到着後は、情報提供を行う。
- 負傷者の応急手当を実施し、状態によっては消防署へ連絡する。

#### 【消火】

- 出火を発見したら、直ちに消火活動を開始する。センター内にある消火器を集め、消火する。消火出来ない場合は消防に連絡するとともに利用者の避難が必要かどうかを判断する。電気火災は感電の心配があるため、ブレーカーを落とし、電源を遮断してから消火する。
- 窓、扉を閉め火災の拡大防止を行う。

#### 【避難誘導】

- 火災が発生した場合、自衛消防隊長（代行者）は直ちに火災の規模や発生場所等を確認し、避難誘導の開始を指示する。
- 火災が発生した時は、利用者様を一時的に安全な場所に移し、火災の状況により避難が必要な場合は、順次、避難場所へ避難する。
- 負傷者及び逃げ遅れた者についての情報を得た時は、直ちに自衛消防隊長に報告する。
- 避難終了後、避難誘導員リーダーは、速やかに利用者、職員の人員点呼を行い、逃げ遅れの有無を確認し、自衛消防隊長（代行者）に報告する。

#### 【重茂中学校体育館へ避難する】

- 体育館を管理又は鍵を所持している副校長菅生〇〇様、中沢〇〇様、山崎〇〇様の方に利用者様を重茂公民館に避難をさせる事を連絡する。
- 公用車を使用しての送迎を基本とするが、職員は2人体制など安全には十分に考慮して行う事。
- 負傷者の応急手当を実施し、状態によっては宮古消防署へ連絡する。
- 利用者家族、宮古市役所介護保険課に状況報告をする。

#### 【職員の召集】

- 災害時緊急マニュアルに基づき職員を召集する。
- 夜間に発生した場合、職員が召集するまで、数少ない職員での対応となる。自衛消防隊長（代行者）の指示のもと、落ち着いて的確な初動活動に努める。
- テレビやラジオ、インターネットなどによる大雨や台風に関する気象情報に注意する。
- 警報は急に発表されることも多いため、常時、気象情報に気を付ける。

#### 【事業所周辺の点検】

- 事業所周辺を定期的に見回り、沢の水かさの増加や土砂災害の前兆現象がないか注意する。

第2条に出てくる徒歩圏内、里地区、海沿いを通る職員については下記の通りである。

##### <徒歩圏内の職員>

- ・姉石誠司 ・木村友実 ・前田紫織 ・齋藤清美 ・鈴木美樹 ・高坂千穂子

##### <里地区の職員>

- ・中道セイ ・前川信子

##### <海沿いを通ってくる職員>

- ・佐々木りほ子 ・佐々木良子 ・佐々木裕一 ・中村 明 ・沼崎利子 ・大程 綾
- ・寶 千尋 ・井戸端宏一郎 ・馬場ちえ子 ・木村さつき

#### 附 則

この計画は、平成29年〇月〇日から施行する。

## **2 避難訓練の振り返りの紹介**

老人グループホーム柿の木ホーム



## 平成 29 年 1 月 12 日 土砂災害時想定訓練

### 〔訓練概要〕

- ・ 14 時、大雨による避難準備情報発令の想定。
- ・ ホーム横県道沿いの山が崩れるおそれあり。
- ・ マニュアルに従い宮古山口病院に避難開始する。

### 〔振り返り〕

H29・1・12（木）14：00～

## 土砂災害時想定訓練（日中想定）

利用者 9 名、柿の木ホーム職員 4 名、応援職員 5 名

（宮古市危機管理課 山崎氏、介護保険課 村上氏、宮古山口病院 千葉係長）

開始から訓練終了まで経過時間 8 分

### 反省点、今後の課題

- ・ 誘導の仕方、工夫が必要。
- ・ ホールで待機時に人員確認する。
- ・ ホールで待機するスペースを広くとる。
- ・ 協力的な利用者から誘導する。
- ・ 利用者がパニックにならないように対応する。
- ・ 身支度時にネックライトをつける事を忘れてしまった。
- ・ 避難時に忘れることがないようネックライトの設置場所の検討。
- ・ 応援職員が「何をしたら良い？」と聞くなど声を掛け合い誘導ができた。
- ・ 天候の状況、病院側の状況により病院の正面玄関から入っても良いのではないかな。
- ・ 避難先の受け入れ体制の把握が出来ていない。
- ・ 備蓄品等、台車で運ぶだけでなく、リュックで背負う事も良いのでは。
- ・ 防寒着、上着を出しやすいようにした方が良い。
- ・ 焦らず余裕をもっても良いのではないかな。
- ・ 応援に駆け付けられない状況の時は、駆けつける事が出来ない事を伝える。
- ・ 避難後にホームに戻る際は、行き先を伝えるか、2 人で行動し 1 人が中に入り、1 人が周囲の状況を見る等の対応が必要。
- ・ 連絡網の活用が出来ていた。
- ・ 利用者が指示通りに行動していた。

宮古市役所危機管理課 山崎氏より

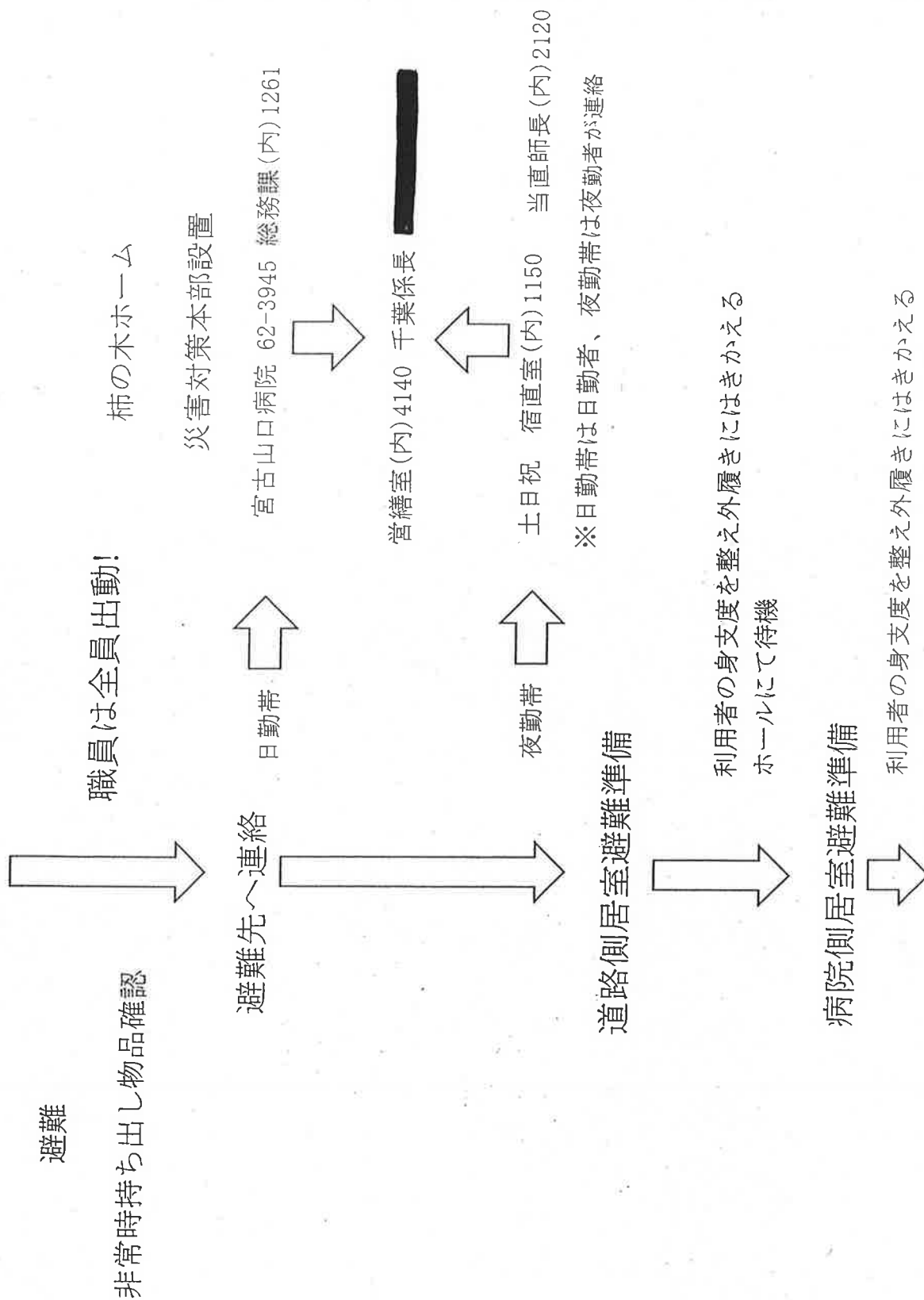
- ・避難準備情報は避難できる明るい時間帯に防災行政無線で放送される。
- ・避難準備の段階では雨が降っている事は無いと思われる。なので避難する時間に余裕があるはず。
- ・一斉に全員を避難させるのではなく、一旦皆で集まりピストンで避難させる方法が良い。
- ・焦る必要はないのではないか。
- ・玄関に避難先を表示していて良い。避難持ち出し品の表示がされていて良い。
- ・避難先に常に備蓄品をおいても良いのではないか。
- ・移動に必要な物は玄関に置く。
- ・車椅子は移動の他に、避難先でのイスの代わりになるので活用した方が良い。
- ・雨合羽（ポンチョ）を着るときは避難と認識出来るのではないか。また、利用者であるという目印にもなる。
- ・避難訓練の先にはおやつやお茶があるという事も避難の不安が和らぎよいのでは。
- ・長雨が続いた時に、地震で土砂崩れが起こる事があるので注意が必要。その際はむやみに動かない。
- ・職員も自宅にいる家族が心配しない対応もして欲しい。
- ・防災ラジオは緊急割りこみで情報が流れる。ラジオの位置により放送が入らない事がある。（3/11 6:00 訓練放送がある）
- ・携帯のエリアメール、テレビからも情報を得る事ができる。

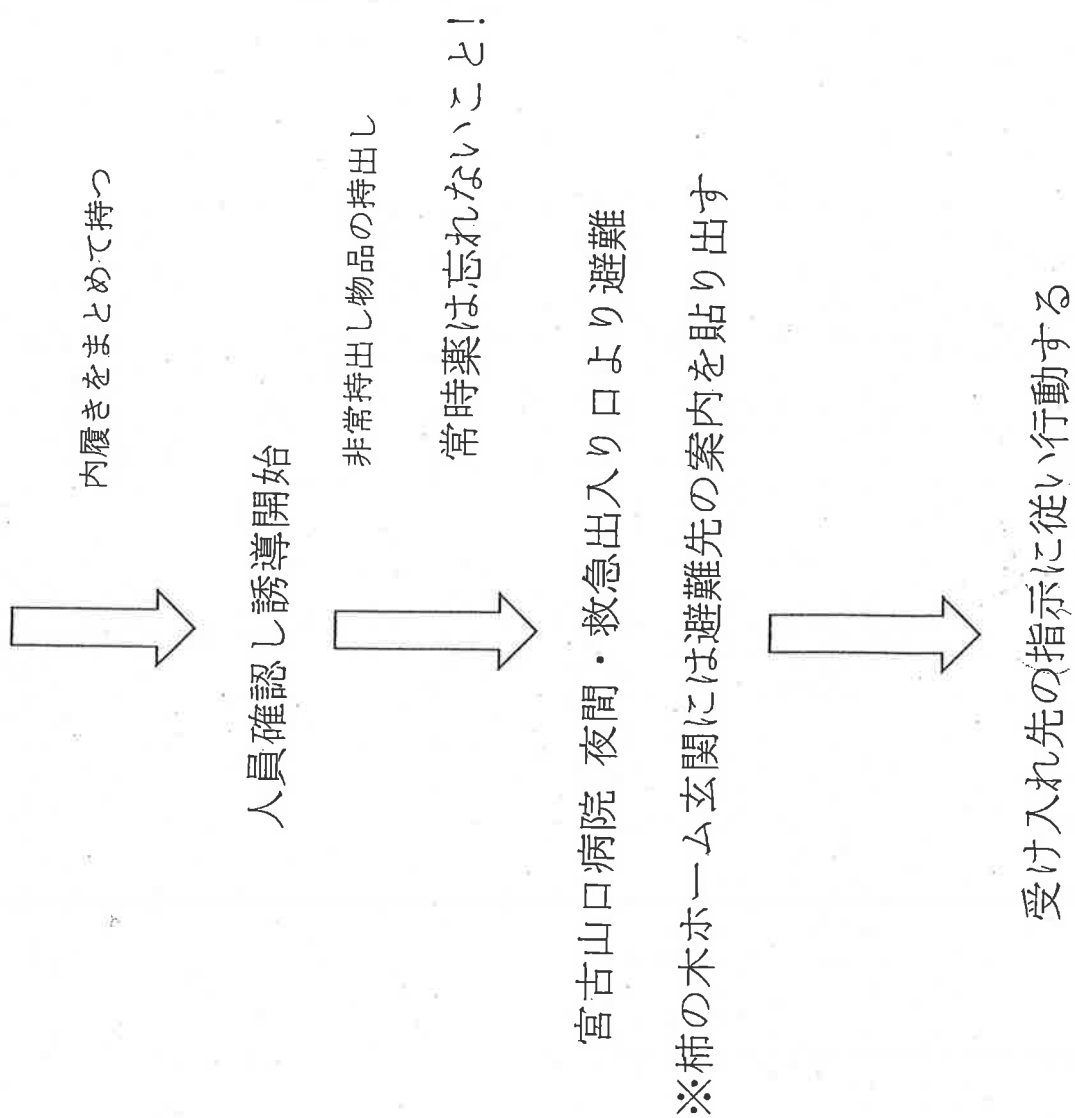
宮古市介護保険課 村上氏より

- ・受け入れ先の指示はどのような体制なのか周知するように。
- ・周りの協力体制があり良い。
- ・利用者の家族に前もって避難先を伝えるように。
- ・慌てないで応援職員が来てからの誘導でも良いのではないか。

# 避難準備情報発令

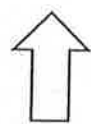
別紙 1



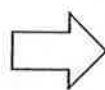


災害対策本部へ

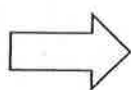
避難終了の報告



全員避難終了、人員確認

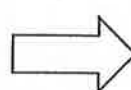


利用者の不安の除去に努める/健康状態のチェック



利用者の家族へ避難先の連絡

宮古介護保険課へ避難終了の報告をする



避難発令解除をもって、帰居準備・人員確認



利用者を GH へ誘導



人員確認/利用者の不安の除去に努める/健康状態のチェック

### 3 施設内避難(危険区域外)の計画の紹介

グループホームえくほ



# グループホームえくぼ 土砂災害対応マニュアル

## 1 目的

このマニュアルは、グループホームえくぼ近隣で土砂災害の発生または発生の恐れがある場合に対応すべき必要事項を定め、土砂災害から人命を確保すると共に、被害の軽減に資することを目的に定める。

## 2 マニュアルの適用範囲

このマニュアルは、グループホームえくぼに勤務する職員及び施設を利用する入居者に適用する。

## 3 施設管理者の責務

施設管理者は、グループホームえくぼにおける土砂災害による被害の軽減について全ての責任を有すると共に、本マニュアルに基づき施設職員を指揮し、利用者の人命を確保する。

また、気象警報などの警戒避難に関する情報を早期に入手するために災害情報を把握すると共に職員にも周知を行うこと。

## 4 施設職員の責務

施設職員は、施設管理者の指揮の下、利用者の人命確保及び被害の軽減のため本マニュアルに基づき、必要な措置を迅速に果たすものとする。

## 5 利用者等の責務

利用者等は、施設管理者及び職員の指示に基づき、土砂災害から身を守るために避難誘導指示に従うものとする。

## 6 台風の接近など、あらかじめ土砂災害の危険性が高まることが予測される場合は夜間当直職員の増員を検討する。合わせて、職員の連絡体制の確認、職員確保策などを検討する。

## 7 災害対策体制の確立

(1)土砂災害警戒情報が発令された段階で勤務者は情報収集を行う。

1 階事務所、宮古市防災ラジオ

(2)土砂災害避難準備情報・避難勧告が出されたとき

①災害対策会議等を設置(関係職員召集)

②職員等へ周知を行う。

③職員の確保策(召集)を検討する。

④避難方法等の確認を行う。

⑤同系列近隣施設との情報交換を行う。

⑥地域の情報を集める。

⑦設備・建物・環境の安全確認を行う。

⑧職員・利用者の安全確認を行う。

⑨避難を開始する。(状況に応じて避難準備を行い、待機)

(3)避難指示が出された時

①直ちに避難する。

## 8 避難誘導

### (1) 避難誘導の原則

施設内の2階層以上のがけ斜面と反対側の場所へ避難誘導する。

### (2) 避難の判断

#### ① 自主避難

次に示す土砂災害の前兆症状を確認した際は、市役所からの連絡を待つことなく直ちに避難を開始する。

施設管理者が判断することになるが、不在の場合は、その場における責任者が判断を行うものとする。

#### 〈土砂災害の前兆現象〉

※がけの表面に水が流れ出す。

※がけから水が噴き出す。(新たな湧水が発生)

※小石がパラパラと落ちてくる。

※がけの樹木が傾く。

※樹木の根が切れる音がする。

※樹木の倒れる音がする。(倒木)

※がけに割れ目が見える。

※傾斜が膨らみだす。

※地鳴りがする。

※強烈な土の匂いがする。

#### ② 市役所等からの情報に基づく対応

※避難準備情報・避難勧告・避難指示等を受けて対応する。

### (3) 避難方法

#### ① エレベーター（使用可能な場合）

車椅子

#### ② 階段

徒歩

### (4) 避難時の服装

避難は、昼間夜間や季節によって避難服装が異なるので、最低避難時に必要な服装を定めておく（持参するだけで良い）

### (5) 避難の経路

施設内の避難経路は、玄関、1階非常口、2階非常口の三カ所とする。

### (6) 地域との連携

#### ① 避難誘導の応援

夜間を中心に避難誘導が手薄になることが容易に想定されることから、地域の応援がいただけるよう、協力要請の取り組みを行う。

② 地域住民に一時的な緊急避難所とし、解放せざるを得なくなったことを想定し、入居者の生活スペースを確保するためにも、受け入れる場所、人数などを決めておくことが求められる。

## 9 防災教育

施設管理者は、土砂災害の危険性や前兆現象など、警戒避難体制に関する事項を職員に教育し、情報伝達や自主避難の重要性を理解させる。

### (1) 教育内容

#### ①土砂災害の危険性

#### ②土砂災害の前兆現象

前述の土砂災害の前兆現象の理解を深めておく。

#### ③情報受伝達や体制

- ・情報の種類（気象情報・避難情報）
- ・どこから、どの様な情報が、どんな手段で伝達されたか
- ・入手した情報を、どう伝達するのか

#### ④避難判断・誘導

- ・自主避難の判断の重要性（がけ崩れ前兆現象、避難準備情報等）
- ・自主避難の判断は、原則施設管理者であるが、連絡が取れない場合は、その場の責任者が責任者として判断を行う。
- ・避難場所の確定（安全な避難場所の事前選定の重要性）。予測被災に基づく避難場所選定のシュミレーション
- ・誰が、誰を、どのように誘導するか、又は避難措置をするのか

#### ⑤マニュアル

- ・職員の役割確認
- ・職員の駆けつけ体制

### (2) 教育時期

出水期（梅雨、台風接近）を迎える時期は防災教育を実施する。

- ・実施時期
- ・研修時間
- ・参加対象者
- など

## 10 訓練

訓練は、防災教育の一環として実施することが望ましいことから教育時間に合わせて実施する。

### (1) 訓練内容

- ①情報受伝達訓練（情報の受付方及び情報の発信方法）
- ②避難判断訓練（特に自主避難についての判断）
- ③避難誘導訓練（誰が、誰を、どこへ誘導するか、服装のチェック）
- ④避難訓練（要介護に応じた避難方法、階段避難方法等）

### (2) 訓練検証

訓練実施後は、必ず訓練参加者でミーティングを行い、訓練状況の検証をし、本マニュアルの検証に反映させる。

## 1.1 入居者を施設外に避難させる場合

(1) グループホームえくぼにおいて施設外に避難する場合は、次による。

① 建物内に避難場所を確保することが困難な時

② 建物が倒壊するなどの危険が及ぶ時

(2) こうした事態に備え、入居者情報を備え付けておく（指名、住所、家族への連絡先、既往歴、服薬、食事形態の情報をいれておく）

(3) 避難先は、原則、宮古市の指示に従って避難する。

状況によっては、地域避難場所を選択する場合もある。当施設における地域避難所は、青猿神社となる。

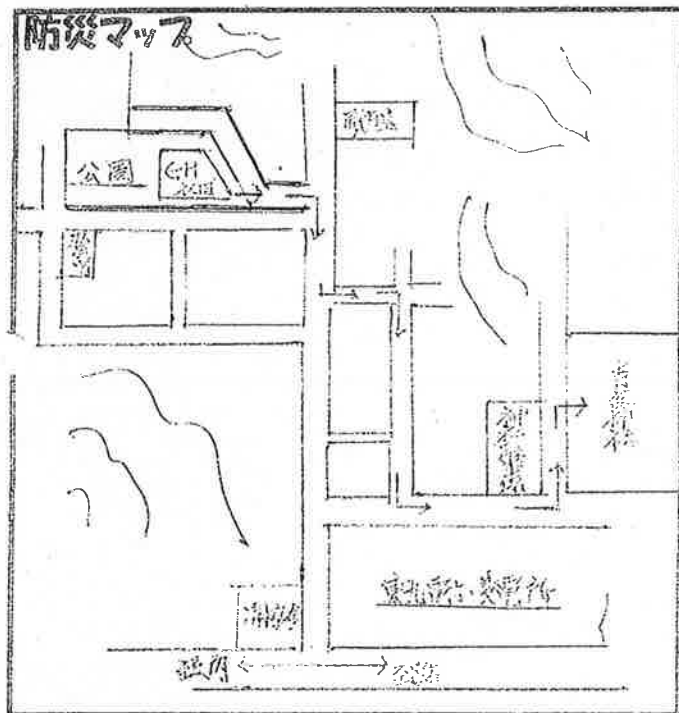
(4) 避難先への職員の配置は、原則、入居者の避難者数に準じて職員を割り振る。

(5) 避難先への移送にあたっては、避難先、避難者数を記録し、もれなく避難させ、避難後のフォローも迅速に対応できるようにする。

# グループホームえくぼ

避難場所名	斎藤神社
連絡先	0193-63-8554
住所	宮古市長根4丁目4の28
設備状況	

連絡先一覧	
市役所	0193-62-2111
消防署	0193-62-5533
民生委員(田中靖博)	
施設長(大久保博)	



## 避難準備情報発令

↓

## 持ち出し物品の確認

↓

## 利用者の状態確認

↓

## 避難所への連絡・近隣への連絡

↓

## 避難

物品リスト	担当者
◆薬	当日 日勤者
◆着換え(おむつ)	当日 日勤者
◆食糧・水	当日 巡回
◆連絡先一覧	当日 日勤者
◆緊急持ち出しリスト	当日 日勤者
◆	
◆	
◆	

## 避難訓練確認表

4月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	3月
備品 確認	土砂 災害	水害	火災 訓練	備蓄 食糧	防災 訓練	夜間 火災 訓練	地震